

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

山川中学校
「学力向上実行プラン」

- 自分の考えをまとめ、文章で表現できる生徒の育成
- 基礎・基本の学習が定着し、主体的に学習に取り組んでいける生徒の育成

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○調べ学習で、決められたテーマに沿って調べたことを自分でまとめることができる。 ●書くことに苦手意識をもっている生徒が多く、語彙が少ない。学習習慣が確立していないため、基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。	・主体的に他者と対話を行い、協働的な学びができる。 ・繰り返し、粘り強く取り組み、基礎的・基本的な事項について習得できる。	・調べ学習や授業に、ICT、デジタル教科書、タブレット、ホワイトボードミーティング等を活用する。 ・小テスト等で基礎学力の向上を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目標を継続し、実践することによって、学年があがるごとに真剣に授業に取り組むことができる。 ●まとまった文章を書くことや、自分の意見をまとめることに苦手意識があり、発表することに課題がある。	・自分の考えや思いを、目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・家庭学習が2時間以上できる。	・授業の目標と流れを的確に提示する。 ・板書・ノート指導の工夫や視覚支援なども含め、教材研究を行い、よりよい授業作りに努める。 オープンプラスで、お互いの授業を参観して、効果的な授業方法を取り入れ、積極的に自分の考えや意見を発表させて、言語活動の充実を図る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、まじめに根気強く取り組み、提出することができる。 ●家庭学習が十分に定着していない傾向がある。不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。また、読書の習慣が身につけていない生徒がいる。	・学ぼうとする意欲・意識を明確にし、学習規律を守り、家庭学習や苦手な課題にも自ら取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかり振り返り、目標をもち、それを達成するための計画を立てて、家庭学習に意欲的に取り組むことができる。 ・進んで読書に取り組むことができる。	・授業の開始と終了に元気な挨拶ができるよう指導する。 ・各教科で学習規律の明確化と徹底を図る。何をなぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・生徒自らが作成した学習計画のもと、テスト勉強に地道に取り組むことを習慣づける。 ・朝の学習の時間に、毎日読書ができるように時間を設定する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

